

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	ハッピースマイル スクール		
○保護者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	29	(回答者数) 13
○従業者評価実施期間	2026年1月23日		～ 2026年2月1日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月2日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	地域交流の機会を無理のない範囲で広げられるよう、事業所の専門性に合った小規模な外部連携や交流方法を検討していくことが必要と考えている	子どもが集中しやすいよう学習スペースと運動スペースを分けるなど、環境の構造化と清潔な空間づくりを意識して整えている	子どもの学習状況や取り組み内容(例:すらすら等)がより把握しやすくなるよう、保護者への情報共有の方法をさらに工夫していきたいと考えている
2	支援内容や学習状況(例:すらすら等)がより分かりやすく伝わるよう、情報共有の方法や説明の仕方を見直し、保護者が把握しやすい仕組みを整えていくことが求められている	保護者とのコミュニケーションを大切に、日々の様子や支援の意図を丁寧に伝えることで、家庭と共通理解を持ちながら支援を進めている	地域交流の機会について、子どもに負担のない範囲で参加しやすい形を検討し、専門性を活かしながら無理のない連携方法を模索していきたいと考えている
3	専門的支援を維持しながら外部連携も進められるよう、スタッフ間の役割分担や情報共有の仕組みをさらに整え、無理のない形で取り組みを広げていくことが今後の課題となっている	子どもの特性に合わせた専門的な支援を行うため、スタッフ間で情報共有を密に行い、活動が固定化しないよう多様なプログラムを工夫している	多様なプログラムや個別支援の質を維持・向上させるため、スタッフ間の役割分担や情報共有の仕組みをより整え、支援の一貫性をさらに高めていきたいと考えている

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域交流や外部の子どもとの関わりの機会が、他の支援項目に比べて相対的に少なく見える点	専門的な個別支援を中心に据えているため、スタッフの時間や体制が個別療育に集中し、地域交流など外部活動に割けるリソースが限られやすいことが背景にある	学習内容や支援の進捗(例:すらすら等)がより分かりやすく伝わるよう、保護者への情報共有の方法やツールを見直し、把握しやすい仕組みを整えていくことが必要と考えている
2	学習内容(例:すらすら等)や支援の細かな進捗が、保護者にとって把握しづらい場面がある点	支援内容や学習状況の共有は丁寧に行っているものの、専門性が高いゆえに説明が難しく、保護者によって理解度に差が生じやすいことが要因となっている	地域交流の機会について、子どもに負担のない範囲で参加しやすい形を検討し、専門性を活かしながら無理のない外部連携の方法を広げていくことが求められている
3	一部の説明や情報提供において、保護者によって理解度に差が生じ、十分に伝わりきらない場面がある点	子どもが安心して集中できる環境づくりを優先しているため、活動の幅を広げる際に慎重な検討が必要となり、情報提供や外部連携が限定的に見えることにつながっている	多様なプログラムや個別支援の質を維持・向上させるため、スタッフ間の役割分担や情報共有の仕組みをさらに整え、支援の一貫性と効率性を高めていくことが今後の課題となっている